

## コリント人への手紙第一10章4節 「岩なるキリスト」

### 1A キリストを表すイスラエルの旅

1B 過越の子羊

2B 紅海の分かれ

3B マラの水(&青銅の蛇)

### 2A 岩と水の示すもの

1B 堅固な救い

2B いのちの水

3B 不変の方から流れるいのち

### 3A 打たれ砕かれた岩

1B キリストの受難

2B 罪の赦しと清め

3B 永遠のいのち

### 4A 取るべき応答

1B ただ一度の犠牲

2B 信仰の告白

## 本文

コリント人への手紙第一 10 章を開いてください。今朝は、10 章 4 節に注目したいと思います。  
「みな、同じ霊的な飲み物を飲みました。彼らについて来た霊的な岩から飲んだのです。その岩とはキリストです。」

パウロは、先の 9 章で、信仰の歩みとは、賞を得ようとしている競技者のようであることを話しました。競技というのは、目標を目指して走っているのですが、途中で失格する人たちが出てきます。目標のために基本どんなことをしてもよいのですが、基本的なルールに違反する時には失格となります。例えば、早く走るために、ドーピング、違法薬物まで接種して出場したら、競技そのものへの参加が禁止です。せっかく賞を取っても、剥奪ですね。同じように、霊的に失格者になる可能性を彼は話していました。「9:27 むしろ、私は自分のからだを打ちたたいて服従させます。ほかの人に宣べ伝えておきながら、自分自身が失格者にならないようにするためです。」10 章で、パウロはコリントの人たちに、失格者になることがないように気を付けなさいと警告しています。

### 1A キリストを表すイスラエルの旅

その例として、イスラエルの民の荒野での旅を取り上げています。神は、エジプトからイスラエルの民を救い出されました。それは、彼らを、アブラハム、イサク、ヤコブに約束された地に導き、そ

ここに住ませるためです。ところが、荒野において一つの世代が滅んでしまいました。これを自分たちへの教訓となるために、神がモーセに書かせたのだということを話しています。その荒野の旅の中で出てくる話が、イスラエルが、喉が渴いたと不満を鳴らすので、主がモーセに岩を杖で打ちなさいと命じられたことでもあります。そうしたら岩から水が出てきました。この話をもって、パウロが「その岩とはキリストです。」と言っています。

これが、とても不思議です。いや、聖書はこのように読むべきだということを、主イエスを始め、主の使徒たちは教えています。一見すると、旧約聖書は神の選ばれたイスラエルの民の話で、新約聖書は、イエスの出てくるキリスト者の話と読んでしまいます。けれどもそれは間違いで、イエス様は、ユダヤ教の教師たちにこう言われました。「ヨハ 5:39 あなたがたは、聖書の中に永遠のいのちがあると思って、聖書を調べています。その聖書は、わたしについて証しているものです。」旧約聖書に、永遠のいのちがあり、それはわたしについて証しているのだとイエス様は言われます。またこうも言われました。「マタ 5:17 わたしが律法や預言者を廃棄するために来た、と思っではなりません。廃棄するためではなく成就するために来たのです。」旧約聖書の律法や預言を、イエスは成就するために来られた、ということなのです。

イスラエルの歩みにある出来事も、イエスご自身を証言するため、またイエス様にあって成就する、実現する影のような存在なのだということです。イスラエルが、いろいろな出来事を通して、それで救いを求めます。いのちを求めます。その飢え渴きがあって、それでイエスが来られたのを見て、「まさに、この方が私たちが願い求めていた、切望、熱望していた実体だ。」として、満たされるためのものだというのです。私たち一人一人の人生も、そうなのかもしれません。自分自身がいろいろな人生を歩んできました。その中で、何かが足りないと思っています。でも、その何かとはなにか？と思います。実は、それはすべて神が予め、自分自身が真理を求めるように用意されていたものであり、イエスにあって、そこにいのちがあったのだ、実体があったのだとなるのです。

### 1B 過越の子羊

イスラエルにとっては、そもそもなぜ、父祖たちが約束の地であり、カナン之地からエジプトに下るように神がされたのか不思議だだと思います。飢饉を免れるためでしたが、ヤコブはためらっていませんでした。それでも行きなさいと言われます。その祖父アブラハムには、「四百年間、奴隷となって苦しめられる。」と言われていたのです(創世 15:13)。

そもそも、なぜ神はそのようなことをイスラエルにされたのか？神には、アダム以来の人間の姿のことが頭にありました。ご自身からアダムが罪を犯して離れてしまい、サタンが実質、この世界の支配者になってしまいました。そこで、神はご自身の選ばれた救い主キリストによって、そこで罪の奴隷状態になってしまっている人々を救い出し、ご自分のもとに引き寄せることをお考えになっていました。神はイスラエルを、その民族を作り出されることによって、全人類のための救いがど

のようなものであるかを、目で見える形で分かるようにされていたのです。すなわち、エジプトは、悪魔の支配する世そのものを示しています。その王ファラオは、イスラエルの民を苦しめ、労役を課し、そこから出ていくのを強情になってさせないのですが、彼がサタンの姿を示しています。そこで、神は十の災いを下されます。

最後の災い、第十の災いをもって、ファラオのほうが無理にでもイスラエルを追い出すと、神はモーセに予め伝えておられました。そして神は、イスラエルの民に対して、不思議なことを命じられます。それぞれの家庭で子羊を用意しなさいと命じられるのです。そして、それを屠ります。その屠った時に流された血は、家の門柱と鴨居につけなさいと命じられます。そして、その肉は火で焼いて食べなさいと言われます。その夜に、すべての人の家に入っていて、その長男を打つと神は言われました。しかし、家の入口に、子羊の血が塗られているところは過ぎ越すと約束されました。実に不思議ですね。何のために？と思います。けれども、新約聖書で明らかにされています。バプテスマのヨハネが、イエス様を見て「見よ、世の罪を取り除く神の子羊。」と言いました(ヨハ1:29)。そしてコリント第一の手紙でも、パウロがこう書いているのを私たちは読みました、「5:7 私たちの過越の子羊キリストは、すでに屠られたのです。」イスラエルが、エジプトから連れ出され、その時に神の裁きから免れるのは、過越の子羊の血でした。それは、私たちが罪の奴隷状態から解放され、サタンの支配から神の支配へ連れ出される時に、神の罪に対する裁きから私たちを免れさせるのは、キリストの流された血だということです。

## 2B 紅海の分かれ

そして出て行ったイスラエルの民は、紅海の岸辺に宿泊するように命じられましたが、なんと神は、ファラオの心を頑なにされます。そしてファラオが思い直して、イスラエルを再び奴隷にしようとして、精鋭部隊を連れて追いかけるのです。目の前が海で逃げ場がなくなったイスラエルに対して、神は紅海を分かれさせ、その間を通らせました。エジプト軍はイスラエル人たちを追跡しますが、イスラエル人たちが対岸に到着すると、分かれていた海は一気に元に戻りました。そのエジプト軍を彼らの目の前ですべて滅ぼされたのです。

なぜ、神はこのようなことをされたのか？それをパウロは、10章2節で「**そしてみな、雲の中と海の中で、モーセにつくバプテスマを受け**」たと言っています。バプテスマ、水に浸かることです。水の中に、自分たちを苦しめていたエジプトが沈みました。奴隷状態であった、古い自分は、もう沈んで葬りさられたのです。そして今は、荒野を経て約束の地に向かう新しい生活、いのちがあるのみです。古いものは過ぎ去り、すべてが新しくなったのです。これがまさに、キリストにつくバプテスマを示していました。「ロマ 6:4 私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、ちょうどキリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、新しいいのちに歩むためです。」

### 3B マラの水(&青銅の蛇)

そして、荒野の旅を始めて間もなくしてから、これまた不思議なことを神はモーセに命じられました。民が、喉が渴いたと訴えます。マラというところで水が見つかりましたが、苦い、つまり、水が汚くて飲めるようなものではありませんでした。そこでモーセは主に叫んだのですが、主は、彼に一本の木を示されました。それを水の中に投げ込むと、水が甘くなりました、つまり浄化されたのです。(出エ 15:25) 木を入れて、どうしてまた水が苦いところから甘くなるのか? と不思議ですね。

ずっと後に、主は、イスラエルの民が不平を鳴らして、神が燃える蛇を彼らに送られて、彼らが死んでいきました。彼らが、主に罪を犯したと言いました。すると神はモーセに、青銅の蛇を作り、それを旗竿にかけなさい、その蛇を見ると人々は死なないで生きると約束されたのです。ここでも木の旗竿が使われています。

これらが、一つのことを示しています。他の律法で、木につるされた者は神に呪われていることが書かれています。(申命 21:23) つまり、これはイエスが十字架の木にかけられて、罪の呪いを受け取られたということを指し示しているのです。木によって、苦い水が甘くなるのは、キリストが神の呪いを受け取られたので、罪から来る呪いが取り除かれたということです。同じように、旗竿は十字架の木を表していて、青銅の蛇は、罪を犯すようにそそのかすサタンが、キリストの十字架によって裁かれたことを示しています。

### 2A 岩と水の示すもの

同じような形で、岩から水が出るという出来事が起こっていたのです。イスラエルが、ここで渴きの中で死なせるつもりか、とモーセに迫りました。それで主がモーセに言われます。「出 17:5-6」民の前を通り、イスラエルの長老たちを何人か連れて、あなたがナイル川を打ったあの杖を手に取り、そして行け。6 さあ、わたしはそこ、ホレブの岩の上で、あなたの前に立つ。あなたはその岩を打て。岩から水が出て、民はそれを飲む。」モーセはイスラエルの長老たちの目の前で、そのとおりに行った。」

### 1B 堅固な救い

岩というのは、聖書で何度となく、堅く確かなもので、そこに避難すると安全で、私たちに救いをもたらすものとして出てきます。当時はもちろんダイナマイトがありませんから、岩以上に不動で、変わりなく、どんな攻撃にもびくともしない存在として当時の人々は捉えていたことでしょう。

私たち日本人には、その地域における岩や石がどのようなものか想像が難しいかもしれません。基本、イスラエルやその周辺の地域にとって、すべてが岩です。イスラエルは小さな国だから、いろいろなものを輸入しなければいけないけれども、一つだけ岩や石は輸入しなくてよいという言い回しがあるほどです。イエス様が大工の子でしたが、当時の大工が家を建てる時は石を加工する

石工でした。家具とか農具の時には、木工でもありましたが。ソロモンの神殿も、石切り場で石を切って、それを現場に持って来て神殿を建てました。イエス様が十字架につけられたところ、ゴルゴダ、あるいはカルバリーは、石切り場でした。それほど身近なところにある石や岩は、彼らにとっては、呼び求めればすぐに助けと救いを与え、また自分を守ってくれる存在として、体で感じ取っていたのです。

そこで、聖書には数多く、神ご自身が岩なる方として出てきます。ダビデが生涯の最後に歌いましたが、サウルが自分を殺そうとしてそこから救い出されたことを、何度となく経験しました。文字通り、岩が仕切りとなり死を免れたり、エン・ゲディでは岩の隠れ場が多くあり、そこに隠れていたところに、サウルがやって来て、逆に彼を打つことができる機会さえあったほどです(結局、彼は、自分の手でサウルの命を取りませんでした)。そこでこう歌います。「Ⅱサム 22:2-4 彼は言った。【主】よ、わが巖、わが砦、わが救い主よ、3 身を避ける、わが岩なる神よ。わが盾、わが救いの角、わがやぐら、わが逃れ場、わが救い主、あなたは私を暴虐から救われます。4 ほめたたえられる方、この【主】を呼び求めると、私は敵から救われる。」

ダニエルは、バビロンの王ネブカドネツアルの夢を伝え、また解き明かしました。「2:34-35 あなたが見ておられると、一つの石が人手によらずに切り出され、その像の鉄と粘土の足を打ち、これを粉々に砕きました。35 そのとき、鉄も粘土も青銅も銀も金も、みなともに砕け、夏の脱穀場の籾殻のようになり、風がそれを運んで跡形もなくなりました。そして、その像を打った石は大きな山となって全土をおおいました。」この「一つの石が人手によらずに切り出され」というのがキリストご自身です。イエスは聖霊によってみごもったマリアから生まれ、人手によらないで切り出されました。また、大きな山というのは、神の立てられる永遠の国です。イエス様は、このことを取り上げて、ユダヤ人指導者たちに語られます。詩篇の箇所、「家を建てる者たちが捨てた石、それが要の石となった。(マタイ 21:42)」とあるのですが、これを引用されて、ダニエルの解き明かした夢を語られます。「21:44 また、この石の上に落ちる人は粉々に砕かれ、この石が人の上に落ちれば、その人を押しつぶします。」どんなに横暴な国が世界を支配しようとも、この方の一撃ですべてが粉々に砕かれるということです。

そして、イエス様は、ペテロにこう言われました。「マタ 16:18 わたしはこの岩の上に、わたしの教会を建てます。よみの門もそれに打ち勝つことはできません。」イエス様が話されている岩とは、巨大な崖です。イスラエルで最も高いヘルモン山の麓にある崖です。そういった堅固なところに、教会が建てられています。

## 2B いのちの水

そして、水が荒野で岩から出てきましたが、水も聖書では数多く出てきます。その地域の人にとって、私たち以上に水は切実であり、いのち、そのものです。荒野が多く、稀に降って来る水を、貯



水槽などに入れて飲んでいきます。非常に貴重な存在であり、私たち以上にいのちがかかっています。それから、貯めている水が多いので、先ほどのマラの水のように、おいしくない、また飲めなくなってしまうものもあります。その中で、流れている水は生き返らせます。水については、いつも動かない、貯められている水よりも、動いている水が人々を癒やし、生き返らせるのです。水が希少なイスラエルで、私は貴重な経験をしました。ガリラヤ地方に、泉から湧き出る水のプールがあるのです！あまりにも天然の水なので、中に入ると足を小魚がつついてきました。

そのような背景から、イエス様は、サマリアの女にこう言われました。「ヨハ 4:14 しかし、わたしが与える水を飲む人は、いつまでも決して渴くことはありません。わたしが与える水は、その人の内で泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出ます。」永遠のいのちが、内側から出てくる泉からの水にたとえておられます。そして、仮庵の祭りの最後の日に、イエス様は立ち上がって大声で宣言されました。「ヨハ 7:37-38 だれでも渴いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。38 わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになります。」湧き出るだけでなく、流れ出る、鉄砲水のように勢いよく出るということです。そして、黙示録の最後、イエス様がすべての人に呼びかけておられます。「黙 22:17 御霊と花嫁が言う。「来てください。」これを聞く者も「来てください」と言いなさい。渴く者は来なさい。いのちの水が欲しい者は、ただで受けなさい。」主は、ご自身が戻って来るにあたって、すべて人にイエス様から、いのちの水を飲むようにと招かれています。

### 3B 不変の方から流れるいのち

ですから、岩から水が湧き出るというのは、それだけでも奇跡というか、とてつもなく不思議なことですが、その意味するところも本当に不思議です。何も変わることなく、堅固な岩から、動き、絶えず変化し、流れ出て命を与えるということです。これは、キリストがいつまでも変わることはない方、この方は何にも動じない方であることを示しています。「ヘブル 13:8 イエス・キリストは、昨日も今日も、とこしえに変わることがありません。」この二千年、聖書とイエス・キリストほど、多くの批判を受けた存在はありません。いつかは、その証言を滅ぼそうとして、数多くの人々が挑みかかってきました。しかし、その福音の使信は全くぶれることはありません。コリントの人たちは、十字架につけられたキリストだけでは物足りない、人間的な哲学のような知恵が必要であるかのようにしていました。しかし、土台はキリストであり、全く変わることがありません。私たちは、生きた化石、シーラカンスのように、いやそれ以上に、変えることなく言い伝えられてきた福音のことばを伝えているのです。

しかし、その全く変わらない方から、絶えず変わる、流れ出る、新鮮な水が流れ出るのです。御霊の働きです。多くの人たちは、この奥義と言ったらよいでしょう、分かりません。私たちは、古臭い福音を頑なに信じているからこそ、そこに期待し、信頼しているからこそ、この世において最も斬新で、革命的で、画期的なこと、新しいこと、新鮮なことが起こるのです。変わらないものを変えな

いといけないとすると、そこから出てくるものがよどんできます。全く変わらない神にこそ、人々を一新するいのちが流れ出るのです。

### 3A 打たれ砕かれた岩

ここで、その流れ出る、活ける水がどのようにして岩から出て来たのか、考えてみましょう。モーセは、岩に対してどのようにしろと命じられましたか？ 紅海を分けた時に掲げた杖で、岩を打ちなさいということで、砕かれた岩から生ける水が出てきました。

#### 1B キリストの受難

ここから私たちが分かるのは、その救いを表している岩が、キリストであり、私たちはキリストが砕かれたこと、打たれたことを知っています。イザヤが預言しました。「53:5 しかし、彼は私たちの背きのために刺され、私たちの咎のために砕かれたのだ。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、その打ち傷のゆえに、私たちは癒やされた。」イエス様が、ローマ総督ピラトの前でむち打られました。そして、十字架の木を背負い、釘が手足に刺されました。そのことが平安をもたらし、癒しをもたらすのです。

#### 2B 罪の赦しと清め

イエス様が、私たちの背きのために身代わりに傷を負われたことにより、罪の赦しと清めが与えられています。その赦しの御霊と清めの御霊が、私たちの良心をすっかり癒し、清めてくださるのです。「ヘブル 10:20-22 イエスはご自分の肉体という垂れ幕を通して、私たちのために、この新しい生ける道を開いてくださいました。21 また私たちには、神の家を治める、この偉大な祭司がおられるのですから、22 心に血が振りかけられて、邪悪な良心をきよめられ、からだをきよい水で洗われ、全き信仰をもって真心から神に近づこうではありませんか。」

#### 3B 永遠のいのち

そして、この清めの延長として、永遠のいのちに至るのです。「テトス 3:6-7 神はこの聖霊を、私たちの救い主イエス・キリストによって、私たちに豊かに注いでくださったのです。7 それは、私たちがキリストの恵みによって義と認められ、永遠のいのちの望みを抱く相続人となるためでした。」生ける水は、後に注がれる御霊を示しており、その御霊の働きによって永遠のいのちの望みが与えられています。

### 4A 取るべき応答

そして、イスラエルの荒野の旅には、もう一つの興味深い逸話があります。岩を杖で打つのは、イスラエルの荒野の旅が始まって間もない時でした。けれども、40年近くが経ち、前の世代は死に絶えて、新しい世代になっていました。その時に、再び彼らは飲み水がないとしてモーセとアロンに逆らいました。主は、こう命じられました。「民 20:8 杖を取れ。あなたとあなたの兄弟アロンは、

会衆を集めよ。あなたがたが彼らの目の前で岩に命じれば、岩は水を出す。彼らのために岩から水を出して、会衆とその家畜に飲ませよ。」ここで大事なのは、主がモーセに前回のよう杖で岩を叩くと命じていないことです。岩に命じなさい、岩に語りなさいと言っておられるだけです。ところが、モーセは腹が立っていました。「民 20:10-11 モーセとアロンは岩の前に集会を召集し、彼らに言った。「逆らう者たちよ。さあ、聞け。この岩から、われわれがあなたがたのために水を出さなければならないのか。」11 モーセは手を上げ、彼の杖で岩を二度打った。すると、豊かな水が湧き出たので、会衆もその家畜も飲んだ。」杖を使って岩を打ってしまいました。さらに、二度も打っています。彼は主の命令に聞き従うというよりも、自分の怒りに任せてしまったのです。

このことで、主はモーセが約束の地に入れないようにされました。何とも厳しい処置です。けれども、とってとても大切な神の証しがここで壊れてしまったから、深刻だったのです。

### 1B ただ一度の犠牲

それは、岩を打つのは一度だけで良かったのです。「ヘブル 10:10 このみこころにしたがって、イエス・キリストのからだは、ただ一度だけ献げられたことにより、私たちは聖なるものとされています。」ただ一度、イエス様が全人類の罪のための供え物になることで、すべての救い、永遠の救いを成し遂げてくださいました。モーセは、このことを示すために生きていたのです。キリストの証しをしていたのに、自分の行いがキリストの証しを台無しにしてしまったのです。

### 2B 信仰の告白

そして神は、すべてのことを成し遂げてくださったキリストについて、この方を信じて受け入れ、それで口で言い表すことによって、それで生ける水が与えられるようにされたのです。「ロマ 10:8-10 では、何と言っていますか。「みことばは、あなたの近くにあり、あなたの口にあり、あなたの心にある。」これは、私たちが宣べ伝えている信仰のことばのことです。9 なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われるからです。10 人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。」

私たちの救いは、とてもシンプルです。けれども、勇気ある決断です。この方を信じて、この方を主と言いつぶすことです。しかし、これはどんな行いよりも、ある意味、難しいと思います。神がすべてのことをキリストにあつて成し遂げてくださったという、すごい恵みを受け入れるには、これまでの自分の行いとは別にして行うことなのです。幼い子のようにへりくだらないと、神の国に入ることはできません。しかし、勇気をもってこの一歩を踏むのであれば、イエスの流された血が、すべての罪を清め、御霊をくださり、それは生ける水であります。平和と癒しを与えます。これまでの傷がすべて癒されます。この方こそが、まことの岩、水を出した打たれた岩です。



- 1C 永遠性
- 2C 避け所
- 3C 堅固な土台

<https://www.christianity.com/wiki/salvation/what-does-it-mean-that-god-is-the-rock-of-salvation.html>

In practical terms, a rock is a place to hide behind. Its clefts and caves provide shelter from beasts and storms and enemies. A rock is also a foundation upon which we stand or build. It is solid and sure. Rocks are used to build walls and fortresses to protect those within. A massive rock, like a mountain, is immovable; it stands firm through the fiercest storms and battles.

<https://corechristianity.com/resource-library/articles/christ-our-rock-and-refuge/>

In the ancient world, where explosives and powerful drills were unknown, rock—abundant and varied in shape and size—was a ready image of impervious solidity. A rock provides a solid foundation, protection and security, but it can be a nuisance when it poses an obstacle to progress and dangerous when it falls. The Bible uses words translated “rock” in all these senses and occasionally in more specialized ways.

Much of the OT imagery has the desert as its backdrop. The sight of a rock in a barren, sun-parched wilderness lifted the spirits of the hot and weary traveler or soldier. The ministers of the righteous king, wrote Isaiah (Is 32:2), will be like “the shadow of a great rock in a thirsty land” (NIV). The rock might contain a spring of water (see Ex 17:6) as well as providing welcome shade from the burning sun. The hunted, whether human or animal, could find in the rocks a hiding place (1 Sam 13:6; Ps 104:18). Isaiah reveals a horrifying picture of people trying to hide from God among the rocks (Is 2:10, 19, 21). But ideally rock formed a sound foundation; a rock was a stronghold, a fortress and a refuge. “See, I lay a stone in Zion, a tested stone, a precious cornerstone for a sure foundation; the one who trusts will never be dismayed” (Is 28:16 NIV).

King David knew what it was to be a fugitive in the desert, and he worshiped God as the rock in whom he found shelter (2 Sam 22:2–4, 32; Ps 18:1–3, 31, 46). The image is

---

NIV New International Version

NIV New International Version

repeated in Psalm 31:3; 62:1–8; and 71:3, 7. It is a short step to seeing God as redeemer, savior and deliverer (Ps 62; 95:1; 78:35). God is not only *like* a rock, however—he *is* a rock (Deut 32:30–31). The Israelites had experienced God as a safe refuge, utterly secure and dependable. As Luther was later to express it, *Ein feste Burg ist unser Gott*, “a mighty fortress is our God.”

Rocks can also get in one’s way. If people insist on pursuing their own way, they may find that God will get in their way as “a rock that makes them fall” (Is 8:13–14). This negative view of rocks becomes more common in the NT. Paul refers to Isaiah 8 in Romans 9:32–33. Rocks are an obstacle to agriculture as well, damaging plows or, as in the case of table rock, holding shallow soil that is easily baked in the sun and hostile to the growth of a seed (Mt 13:5; see FARMING). More serious still is the horror of the collapse of a building, a picture of judgment in Luke 20:17–18. A landslide or rockfall, however, might be seen as a merciful release from the worse pains of the judgment to come (Rev 6:15–17).

The NT uses positive images of rock just as the OT does. Simon, the leader, perhaps, of the apostles, is named Cephas, Peter, “Rock” (Mk 3:16). Peter is in some way seen as central to the foundation of the church (Mt 16:17–19). Jesus spoke of the person who hears and acts on his words as building on the rock, a sure foundation, whose house will stand firm (Mt 7:24–27). Peter wrote of the church as being built on the firm granite foundation of Isaiah 28:16, built with “living stones” into a spiritual temple, for Christ himself is the living stone par excellence, rejected by his people indeed but chosen by God (1 Pet 2:4–8).

There remain a few unusual uses of the word *rock*. It is easy to see how God the Rock should be viewed as the Father (Ps 28:1; 89:26; Is 51:1 NIV, “the rock from which you were cut”). It is easy too to see how Jerusalem could be seen as a massive rock (as it literally is) and why Zechariah warned its besiegers to beware (Zech 12:3). It is less obvious that a rock could sell people (Deut 32:30), but it is God the Rock who hands over his enemies to the slaughter. Strangest of all is the reference in 1 Corinthians 10:4 to the rock that traveled with the people of Israel in their wanderings—a spiritual rock, says Paul, to be identified now with Christ. Paul’s point of reference appears to be to a rabbinical legend.

So the word *rock* is used in Scripture with a wide variety of meanings, almost all associated with God, either as a secure foundation or stronghold or as an obstacle to evildoers. Twentieth-century city dwellers need to exercise their powers of imagination

to feel the full impact of King David's relief and joy at finding a secure and shady fortress enclosing a spring of water as he was pursued by his enemies in the desert. Our view of God is enriched by the effort.<sup>1</sup>

---

<sup>1</sup> Ryken, L., Wilhoit, J., Longman, T., Duriez, C., Penney, D., & Reid, D. G. (2000). In [\*Dictionary of biblical imagery\*](#) (electronic ed., pp. 732–733). Downers Grove, IL: InterVarsity Press.